

わたしから人権尊重のまちづくり



○子どもたちが未来に

はばたくために!

今、しておきたいこと

●子どもの目を見て、にっこり笑う。そして、頭をなでて「だーい好き」とだきしめて・・・。

●「くつをそろえてえらいね」「おもちゃを片づけてかしこかったね」「おはしをならべてくれてありがとう」どんなに小さなことでも、いっぱいほめましょう。

●「あなたが、ここにいます。それだけで、私は幸せなの」あなたを大切に思っている大人がいることを伝えてください。

●しかったあとほだきしめて、じっと目を見て話しましょう。「あなたのしたことはいけないことなの。でもあなたのことは大好きなのよ」

●散歩、サッカー、キャッチボール、サイクリングなどでもいいんです。子ども

といっしょに遊んでみましょう。

子どもたちは、大人の表情やしぐさ、言葉かけに敏感です。子どもを人格のある一人の人間として認めることが、人権尊重の精神の芽生えをはぐくむことにつながります。

○ほんとうにそれでいいの? 考えてみましょう!

日常生活の中で、「みんなが言うから」「みんながしているから」と何の疑問ももたずに生活していることはありませんか。

●うわさだけを信じて決めつけたりすることってあるよね?

●血液型でわたしの性格が決まってしまうの?

●結婚式は、なぜ大安にこだわるの?

●数にまつわるいろいろなこだわりもあるときくけど?

●「みんながするから」とか「世間がそう言うから」と、安易に決めつけたり、のけものにしたたりすることはありませんか。

ほんとうにそれでいいの?と生活を見直すことが自分を大切にすることやみんなの人権を守ることにつながっていくのではないのでしょうか。

引用・参考
「社会人権教育資料(Ⅰ)」
徳島県教育委員会



市人権推進課(教育庁舎1階)
☎ 32・2122
FAX 33・3525
Mail:jinkensuishin@city.komatsushima-i.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (34) 松並敦子・選

それぞれ思いを寄せて息の十三回忌わが存命中に願ひかなえり
神田瀬町 大西カヲル

《評》母として息子の法要を行わねばならない逆縁が、どんなに辛く悲しいことか。九十歳の大西さんはきつと、息子さんの十三回忌は私の手だと、頑張つて生きてこられたのだと思う。「わが存命中」の語にその思いが込められ、「願ひかなえり」に万感の思いが伝わって来る。なお「息」は短歌では「息子」の表現として一般化している。

車椅子を桜もみじの下に止めわが晩年の思いにひたる
ひのみね総合療育センター 関 政明

台風にずぶ濡れとなりて投票所たかが一票の思いもよぎる
江田町 深田 伴子

友逝きて淋しくなりし涙の家カモメも友恋い軒低く舞う
横須町 三宅 敏恵

この秋は雨の日多く肌寒く風も冷たし秋も逃げゆく
中田町 倉橋 正則

市老連秋の行事の運動会思い切つて参加を決める
坂野町 橋本千代乃

砂山の砂の鳴く声聞きながら皆生温泉日本海の波
田浦町 太田カツミ

汽車に乗る小さな旅を試みてたくローカル線の駅六つ行く
横須町 福島 夢栄

かの日ここはわが山里なり羊歯深く乗畑に朽ちし父の籠 鋏
立江町 湯浅かや子

何不自由なく暮らしているその人は呟くように犬になりたい
田浦町 西 照子